

児童発達支援評価表【保護者用】

公表：2022年12月22日 保護者数：100 回収数：40 割合40%

◎この「保護者からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行って頂き、その結果を集計したものです。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見等	ご意見に対する回答
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	35	3	0	2		※今年度から新しい施設に移転し、個別・集団療育共に活動スペースを十分に確保することができました。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	27	14	0	5	・課題がクリア出来ないだけで苦手と評価しているのが残念 ・個別療育の回数が中々入れないので、専門の先生の数を増やしてほしい。	※療育を行うにあたり、一人一人の子どもの発達や特性について理解し、発達の過程に応じた課題を目標に支援を行っております。 評価について、説明が不十分だったと考えます。今後わかりやすい説明を心がけ、保護者と情報の共有ができるよう努めてまいります。 ※個別療育について十分な時間が提供できていないのが現状です。 個別療育の提供が十分にできるよう、環境の充実に努めてまいります。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境'になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	32	3	0	5	・新施設になり劇的に改良されたが、必ず通る玄関横の談話室に目に着くおもちゃが置かれていたり、給湯室?のドアが開けたままになっており、興味をひく物の管理が不十分だと感じる。	※おもちゃの配置、使っていない部屋の戸を閉める等、療育に支障がないよう環境の構造化を見直し改善に努めてまいります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	35	3	0	2		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画 ² が作成されているか	31	7	2	0		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	28	5	0	7		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	35	3	0	2	・その日の活動のフィードバックの内容が薄く支援計画に沿った支援がどのように行われたのかまで聞いたことがないのでよく分からない。	※目的に沿った活動だったのか、療育についてわかりやすい説明を心がけます。また、支援計画についての達成度について明確化し、保護者と共有できるよう努めてまいります。
	⑧	活動プログラム ³ が固定化しないよう工夫されているか	30	6	0	4		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	24	3	3	10	・子供の通っている認定こども園とは、どのような交流や連携がされているのかまったく分からない。どういった交流があるのかお聞きしたい。 ・現在、幼稚園年少組に在籍して、つぼみ園は月1回利用しています。 ・この活動は、しなくて良いのではと思う。 ・子供の通っている認定こども園と、どのような交流がなされているのか全然分からない。教えて欲しい。	現在、つぼみ園に通園されているお子さまについては、各保育園、認定こども園、幼稚園と連携しておりますが、各園とつぼみ園全体との交流はありません。しかし、今年度から、お子さまの地域支援の一環として八原保育所とつぼみ園間で交流保育をはじめました。
	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	37	1	1	1		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	32	4	1	3	・支援計画の書類を渡されるのが遅い。(例えば今、2022年1月とかの結果を渡されたらとか、...)	※支援計画作成体制を見直し、療育支援期間に沿った計画提供ができるよう改善いたします。

保護者への説明等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング ⁴ 等）が行われているか	22	4	3	11	・希望したが定員の関係で受けられなかった。	※今年度初めてペアレントトレーニングを行いました。定員の都合でお申し込みされた保護者の方全員には参加していただくことはできませんでした。今後、定期的の実施し、利用しやすい体制を整備いたします。
	⑬	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	32	6	2	0	・やはり目の前の子どもの様子を接しながら確認しているようには見えない。	※一人一人のお子さまの状況と実態について、アセスメントを適切に行い、お子さまと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で支援を行っております。保護者の方々に理解できるようわかりやすい説明に努めてまいります。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	28	8	2	2	・個別療育終了時に口頭にて説明があります。 ・先生方とお話できる時間があまり取れず、終了後はささっと帰る感じなので、お悩み相談的なものができる時間や場所があったらいいなと思っています。お忙しいところ申し訳ありません。	※現在は必要に応じて相談対応させていただいております。気軽に相談できる体制を検討してまいります。
	⑮	親の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12	5	9	14	・コロナ禍なので仕方ないと思う。 ・今まで参加したことがなかったですが、コロナ禍で開催がなかなか難しいかと思いますが、機会があればぜひ参加したいです。	※コロナ感染防止対策により開催を控えていたところですが、今後は感染状況を踏まえ保護者同士の交流が持てるよう、検討してまいります。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	31	6	1	2	・全ての先生ではありませんが、これまで分からないことを質問等させてもらい、後日返答しますと言われたがそのまま返答がなかったことが何度もあり、こちらには質問はせずに自分で動かなければならないのだと思い知ったことがある。	※相談・質問に対して、迅速に対応できるよう努めます。また、後日対応でも返答がないというような事が起こらないよう、職員間での情報共有を図れるよう努めてまいります。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	33	5	0	2		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	24	6	1	9		
非常時等の対応	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	21	10	2	7	・いいえ/この度の一件でそう感じました。	皆さまには多大なるご迷惑をおかけし大変申し訳ありませんでした。職員一同再発防止に努めてまいります。
	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	13	4	2	21	・月に一回程度の利用の為参加していません。	※今年度、防災計画を策定し、保護者の方に避難経路図について周知を行いました。また、施設内掲示板、各部屋へ避難経路図を掲示いたしました。 ※訓練については、毎月1回地震、火災の訓練を行っておりますが集団療育利用者の方のみの訓練となっております。個別療育のみ利用の方については、避難経路図の周知の他、非常口の説明等日頃から意識できるよう周知に努めてまいります。
満足度	㉑	子どもは通所を楽しみにしているか	32	5	0	3		
	㉒	事業所の支援に満足しているか	29	10	1	0	・通ってる意味があるのか不安になる時があります ・なかなか予約が取れないのが満足できません。	※保護者の方とコミュニケーションを取り、お子さまの課題やできるようになったこと等を共有させていただきます。また、療育の頻度について、一人一人のお子さんに必要な回数を提供できるように体制整備に努めてまいります。

(注釈)

- 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。
- 「個別支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。
- 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的をもって行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。
- 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。